

教育委員会だより

発行日 平成22年7月1日
編集・発行 葉山教育委員会教育総務課
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内2050-9
TEL. 046(876)1111
FAX. 046(876)1861

いそぎく

第234号

本年度、葉山町立の小・中学校に入
学した新入生は、小学校三百十三名、
中学校二百五十九名でした。内訳は次
の児童生徒数の（ ）内とおります。

平成22年度 児童生徒数（新入生の人数）

葉山小学校	798名(139名)
上山口小学校	174名(25名)
長柄小学校	365名(69名)
一色小学校	515名(84名)
葉山中学校	491名(174名)
南郷中学校	249名(87名)
計	2592名(578名)

各学校において、学校教育目標を達
成するため、様々な教育活動が展開さ
れ、その中の一つが特別活動の中の学
校行事です。各学年は学校教育目標を
踏まえ学年目標を設定し、年間の具体
的な行事を計画します。

学校教育目標

◇葉山小学校

「自分で考え 行動する子」
「仲良くする子」

学校の風景 春

◇上山口小学校

「かしこく・なかよく・

たくましく」

◇長柄小学校

「自分も人も大切にする子」

葉山町「学びの憲章」

- 個性を大切に、自分を磨こう
- 共に生き、共に育ち、共に学ぶことを喜びとしよう
- 人の温もりと自然の息吹を感じよう
- 葉山を愛し、世界を拓こう

南郷中 FGC活動「葉山メダカの会」



長柄小 運動会「エイサー」



上山口小 運動会「よさこい鳴子」



葉山中学校 校外学習
「地引き網体験」

◇一色小学校

「仲間と共に生きる子」

「思いやりのある子」

「自ら考え学習する子」

「みんなと協力して仕事をする子」

◇葉山中学校

「かしこく・やさしく・たくましく」

◇南郷中学校

「自立」と「共生」

学校にほめる

ユニバーサルデザイン

教育相談員 北澤 光子

教育研究所はその機能の一つとして、町民の皆様や学校からの教育相談を行っています。

そのなかで子どもたち、保護者・地域の方々との信頼の関係でつながるために学校という空間が安心で安全な場所であることがいかに大事なことであるかと考えています。そのためには、ユニバーサルデザインの心による取り組みが大切だと思います。

ユニバーサルデザインの定義としては米国ノースカロライナ州立大学ロナルド・メイヌ博士により1980年代に提唱されたもので、バリアフリーとは少し違うとらえであり、もともとあったバリア（障壁）を取り除くのではなく、最初から取り除かれているという考えです。

これまで研修会、講演会で保護者の方々や、地域の方々への働きかけとして「心のユニバーサルデザイン」のお話を多くさせていただきました。

子どもたちにとって学校が安心で安全な場所であれば、学校という小さな社会における社会人として自信を持つて歩むことができます。そして、大きな社会に出ていく勇気を持ち、歩み出すことができます。

ユニバーサルデザインの活用

これまで様々な地域で見てきた学校におけるユニバーサルデザインの心による取り組みとして次のようなものがあります。



*教室の移動に戸惑う子ども

空間の認知が苦手な子どもの場合、その教室までの道のりに、よく病院で見られる色による道案内をビニールテープでつけることにより、遅刻せずに授業に間に合うことができました。

このようなことで、どんな子も楽に教室移動ができます

*集中することが難しく、自分に有能感もてない子ども

短い集中時間の中でいかに有能感を持たせるかを考え、ほかの子どもにとっても楽しく取り組めるよう配慮することでクラス全体の子どもたちにも楽しい授業となりました。また、それぞれの子どもの良いところ探しのワークをクラス全体で取り組み、クラス全体が自分に自信を持つことに関心を持つことへとつながっていきました。

*見ることに苦戦している子ども

色の問題、文字の間隔の問題、大きさの問題、コントラストの問題で、苦戦している子どもがいます。

ある子どもの場合は、赤が識別出来

ませんでした。そのことに気づいた先生は、チョークの色を変えてくれることでその問題は解消できました。文字の間隔が判断できない子どもの場合は、紙でほかの文字を隠すことで問題を解消することができます。コントラストの問題では、うすいブルーの下敷きを上にかぶせることで解消できたりします。文字の大きさの問題では、大きくコピーしてあげるだけで解消できます。

*聴くことに苦戦している子ども

聴覚が過敏でざわざわとしている環境の中では集中できない子には、耳栓を使うことで解消できました。運動会のピストルの音が耐えられず運動会に参加できない子にはピストルを笛に変えることで運動会に参加できました。先生の話を聴きながらノートを取る事ができない子には事前にプリントを用意することで解決出来ます。

*書くことや計算することに苦戦している子ども

漢字が書けず自信を失っていた子はPCのワード機能を使うことによりノートをとることができるようになり、今まではノートをとることができなかっただけで勉強ができない訳ではなかったと気がついた子がいます。また、計算ができませんに数学の授業に参加することが苦痛で学校に行くことも拒んで

いた子が計算機を使うことで数学に面白さを感じるようになりました。

ユニバーサルデザインを描く意味

このように少しの気づきから、できないと思っていたことから開放してあげることができます。大切なことは、気づいたことを形にしていく段階において、また、その形を使う段階において、様々な子どもの思いに寄り添おうとする気持ちです。自分以外の人の物の見方、感じ方、考え方、使い方などに耳を傾けることが必要です。

ユニバーサルデザインの考えを進めることは社会における多様性を理解し、多様な価値観、人格や個性を認め、自分自身をも認めていく力をつけていくことだと思います。まず大人が心にユニバーサルデザインを描けることが子どもの見本となります。

学校という場所が、豊かな心に支えられ、たくさんの方が連携していく環境となつてこそはじめてユニバーサルデザインの心が発揮できます。誰もが安心して安全と感じることのできる学校であることが、子どもの成長を豊かに促し、生きていく力を育むことにつながると思います。

*相談専用電話

046(875)7296

近日中に学校を經由して、教育相談のチラシを配布する予定です。

公民館教室で

生活に彩を

― 生涯学習課 ―

「雉だ！」

車を止め、みなが降りるか降りないかのうちに、講師の先生が声を上げました。指差す方角を見ると、止めた車の真正面の川原に、赤い顔をした鳥がじつとこちらをにらんでいます。その顔の赤の鮮やかなこと。みな双眼鏡を覗き込みました。先生がすぐに三脚に望遠鏡をセットして、「さあ、見てください。」と呼びかけました。



雉は、しばらく正面を向いて静止し、堂々とこちらに姿を見せると「もういいね」とでも言うように横向きにとことこ歩き出しました。それからは、草むらにうもれて姿を消したり、再び姿を現したり。講座の参加者にたくさんサービスのしてくれました。

また、大磯照ヶ崎の海ではアオバトを観察しました。ここはアオバトの集団飛来地として県の天然記念物に指定

されている有名なスポットです。目にも鮮やかな黄緑色をしたアオバトが群れて岩礁に飛び降り海水を飲む様は圧巻でした。時期がまだ少し早く、五十羽百羽と言うわけにはいきませんが、元氣な一群が飛来し、美しい全身を見せてくれました。

五月二十二日(土)に実施された公民館教室「バードウォッチング入門講座」は、今まで葉山の公民館教室になかった講座です。町民に新しい趣味の世界を体験してほしいと計画されました。町外で公民館教室が開催されたのも初めてではないでしょうか。新しい野鳥の雑誌が発刊され、衆目が集まっていることも実施理由の一つでした。

当初は町内での講座の実施を検討していたのですが、一つには葉山にいる貴重な鳥の営巣を邪魔しないようにという講師側の配慮から、またもう一つには、葉山の観察地は森が主のため、初心者では鳥の発見が難しいと判断したことからあります。

今回は大磯の海、箱根の森、酒匂川の川原と海・森・川という三つの異なる環境で野鳥を観察することにしました。海と川原は比較的鳥が発見しやすいことが、その理由の一つです。

果たして、大磯の海ではみごとにアオバトに遭い、酒匂川の川原では雉に歓迎され、箱根の森では、見ることができた鳥は少なかったのですが、たくさん種類の鳥の声に包まれたのです。



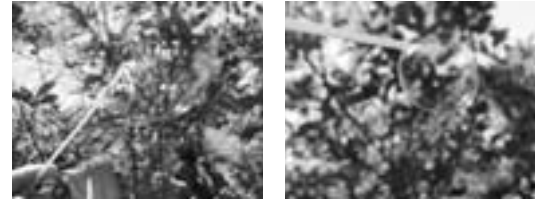
現代はストレス社会と呼ばれていますが。ストレスと仲良く付き合うためには「三つの世界」を持つといいといえます。家庭・職場・そして趣味の世界です。趣味は生活に変化や潤いを与え、やすらぎや彩をもたらししてくれます。

町の公民館教室では今後も、「そば打ち体験」「東洋蘭」「書道」「尺八体験」など様々な講座を企画していきます。新しい趣味の世界を体験し、新たな世界に踏み出してみませんか。

(雉・アオバト写真提供

鈴木宏和氏)

たんぽぽのシャボン玉



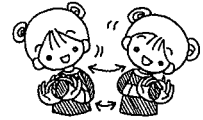
手遊び歌



ナチュラリスト：角田 衛 絵：沢井 楓

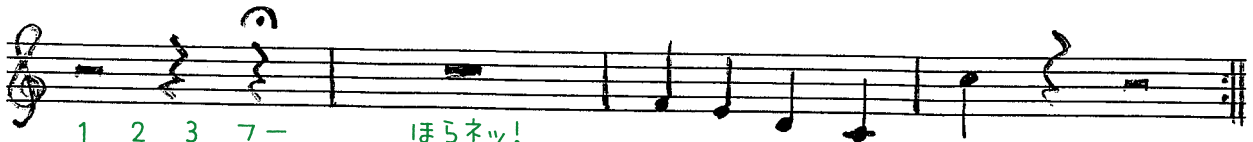
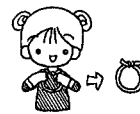


たんぽぽの シャボンダマー



たんぽぽの シャボンダマー

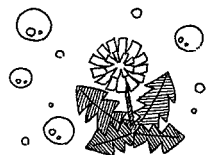
くるとまわして くるるとまわして
チョキッとキッて チョキッとキッて



1 2 3 7ー ほらネッ!

ふぁっとうかんで「そろとんだ
おそろにとんで「パッときえた

パッ



○準備品・タンポポ数本、シャボン液（飲まないように注意して下さい）

- 1小節・リズムに合わせて手拍子4回する。
- 2小節・リズムに合わせて手拍子3回する。
- 3小節・両手を合わせてタンポポの形を3回表現し前後に揺らす。
- 4小節・両手親指と中指を合わせ円を作りシャボン玉を表現し左右に揺らす。
- 5小節・3小節目と同じ
- 6小節・4小節目と同じ
- 7小節/8小節
 - ・7小節、8小節、8拍の間にタンポポの茎を一回結び輪を作る。

- 9小節・結んで輪になった部分をリズムに合わせて3回シャボン液に付け4拍目でそっと吹く。
- 10小節・4拍で出来るだけ大きくする。
- 11小節・シャボン玉を見ながら歌う。
- 12小節・両手を上げてシャボン玉が消えた様子を表現する。リピート記号へ戻る。

*同じ事を繰り返す。次にタンポポの茎をストローの様にし、先端をシャボン液に付けシャボン玉を作る。